

# 自立活動だより



紀北支援学校自立活動部  
令和6年2月発行

本校は、平成22年度に和歌山県特別支援学校教育専門性向上事業「特別支援学校研究指定」を受け、自立活動の研究を行って以来「自立活動の指導」に力を入れてきており、本校の強みとして位置づけています。

その強みを一層確実なものにし次世代に継承していくために、昨年度から2年間自立活動の研究を行ってきました。今年度最後の自立活動だよりは、今年度行った自立活動の研究について書かせていただきます。



## 研究のテーマ

『生活に生きる自立活動  
～般化の視点を踏まえて考える～』

## 研究の目標

教員一人一人が、児童生徒の生活を見据えて、指導目標や指導内容、活動内容を考えて実践し、自立活動でつけた力を生活の中で実現できる。そして、そのつけた力を様々な学校教育活動の場面で児童生徒や教師自身が実感できる。

## 研究の進め方

- ① 小学部を10グループ、中学部を4グループ、高等部を6グループ、愛徳分教室は1グループの計21グループに分け、自立活動（時間における指導）について年間10回の研究を行った。
- ② 研究では、個別の指導計画、指導案の作成をグループで協議しながら行った上で、対象児童生徒の自立活動（時間における指導）の授業を録画し、その動画を見ながら授業の改善に向けて話し合いを2回行った。
- ③ 10月には、中間評価という形で、和歌山大学大学院武田鉄郎名誉教授とオンラインで、小・高等学部の知的障害学級から2つずつ、中学部知的障害学級から1つ、全肢体不自由重複学級の中から2つの計7つの自立活動の授業動画を見ていただいた上でご講評をいただいた。
- ④ 1月には、自立活動研究発表会を行い（他校から21名の参加）、7つのグループの授業参観、発表会に参加いただき、その後、本校職員も参加し、研究総括を武田先生にいただいた。
- ⑤ 2月には全21グループによる校内発表会を行った。

## 武田教授のご講演

テーマ 【生活に生きる自立活動～般化の視点を踏まえて考える～】

般化とは、学習によって習得したことが、その具体的対象を離れ、法則となって定着すること。学習の転移のときの重要な条件の一つとされる。

本研究における般化とは、子どもが自立活動の時間で「障害による学習上又は生活上の困難」を改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を身につけ、各教科等や日常生活の中でそれらを使うことができることである。



## 講演内容

般化についての説明をいただいた後、勝ち負けにこだわる子どもを例に挙げ、自立活動の時間にソーシャルストーリーの手法を用いて、「大切なことは、最後まで走ることです。だから転んでも負けても大丈夫です。」と価値を事前に伝えておくことと具体的に教えていただきました。また、子どもの「テンポ」「タイミング」「ペース」に教師がぴったりと合わせる必要があり、ザリガニ釣り（引っ張りすぎてもザリガニは逃げてしまう。引っ張らなければ餌は食べられて逃げてしまう。少し引き寄せ、また食べさせて、引き寄せる）の要領で行動形成や不安の軽減を子どもとともに行うことが求められる。医療的ケアを必要とするような非常に障害が重度な子どもであっても“子どもがする”“子どもとする”活動を展開しようとする視点を教師がもち、子どもがセルフイニシアチブをもち、子ども自身が能動的に外界に働きかける力を育成することが教育の専門性の重要な一つであるということをお話しくれました。

最後に、指導の基本は「興味・関心」「安心感」「待つ」「自己選択・決定」「教師が手を出すことは最小限にする」という距離感と、「褒める」「否定しない」「叱らない」「譲らない」こと。研究全体として共有してほしいこととして、①自立活動の「ねらい」を明確にする。②一貫した対応のできる、そして情報共有できるチーム作りをする。③子ども（特に障害の重い）にとって分かりやすい予告（声かけ+タッチキュー）の受信で、子どもの主体的な発信につなげる。④ICFの背景因子においてICTの活用で可能性を広げる。⑤ダイナミックアセスメントを重視し、子どもに寄り添いながら行った授業であれば、たとえ「見栄えの悪い授業」であっても良い授業であるといえる、と締めくくられました。

## 校内発表会

全21グループが各々研究の流れや成果をまとめ、動画資料として作成し校内発表を行った。  
（以下の表を参照）

学部	学年 ブロック	タイトル又は 授業内容がわかる説明 (主に取り組んでいる区分を記入)	
中学部	1B1年	全集中！僕の思い届け！！ ～集中を養い、自分の気持ちを伝えよう～ (心理的な安定・コミュニケーション)	1B1年 相手の話に集中しよう ～N君のおつかい大作戦～ (人間関係の形成、コミュニケーション)
	1B1年	心理的な安定を固め、課題に取り組む力を育てるために ～自立活動の時間の指導で取り組んできたこと～ (心理的な安定・人間関係の形成・コミュニケーション)	1B2年 体の動きがぎこちない生徒が経験を通してボディ メージを高める取り組み (身体の動き、環境の把握)
	1B2年	コロコロどっち、きょうの気持ちはどっち？ ～「集団あそび」を通して人との関わりを学ぶ自立活動～ (人間関係の形成・コミュニケーション)	1B3年 Challenge smile up ～みんなにとって心地よい環境になる素地作り～ (人間関係の形成、コミュニケーション)
	1B3年	伝えよう自分のきもち！ 知ってみよう友だちのきもち！ ～みんなちがって みんないい～ (心理的な安定・人間関係の形成・コミュニケーション)	2B3年 自分の思いを伝えよう ～コンコンSOS～ (人間関係の形成、コミュニケーション)
小学部	1B3年	わたしのきもちをきいて ～自発的なことばのコミュニケーションを目指して～ (人間関係の形成・コミュニケーション)	教II1年 自分の要求を相手に伝えるために (コミュニケーション)
	1B4年	日常生活に生かせる自立活動 (身体の動き)	教II2年 すてきな大人になるために (健康の保持・身体の動き)
	1B5年	鉛筆を正しく持ち、良い姿勢で学習するために (身体の動き)	教II3年 ほめられる喜びを生かすために (環境の把握・コミュニケーション)
	1B6年	待てる男子になるために ～自制心の般化に向けて～ (心理的な安定)	教III1年 自分自身の課題に向き合うための自立活動 (心理的な安定)
	2B1年	たのしくやってみよう！ (健康の保持・心理的な安定・身体の動き)	2B1・3年 自立活動の指導について 『歩いていいな～』 ～意欲的な歩行をめざして～ (身体の動き・コミュニケーション)
	2B4年	iPadを活用した コミュニケーション能力を高める取組 (心理的な安定・人間関係の形成・コミュニケーション)	2B2年 筋緊張の強い生徒にとって 豊かな学校生活を広げるために 第2章 (健康の保持・人間関係の形成・身体の動き・コミュニケーション)
愛徳	肢重1年	「自立活動」を通して好きな活動を見つけ 生活を楽しくするために (心理的な安定・身体の動き)	

【発表会后に記入してもらったアンケートから（一部抜粋）】

・自立活動の学習指導案様式に「イメージする姿（1年後）の欄を加えたということで、実態から指導目標を考えるにあたって整合性が見やすくなるのだと分かりました。